

神戸大学大学院海事科学研究科国際交流基金支援事業 実施報告書

(2. 学生の大学間国際交流及び国内交流に対する支援事業)

令和 5年 11月 8日

神戸大学大学院海事科学研究科長 殿

所属・学年 海事科学部海洋安全システム科学科 4年

学籍番号 2057202W

氏 名 中田晃輔

学生の大学間国際交流及び国内交流に対する支援事業における成果等について、下記のとおり報告します。

行 先	大学名等：サタクンタ応用科学大学
プログラム名等	IAMU/AGA23 カンファレンス
実施期間	令和5年10月17日 ～ 令和5年10月22日
具体的な成果及び今後期待出来ること等  (くわしく記載してください。枠内に記載できない場合は、別紙に記載の上、提出してください。)	<p>[1日目 10/17]</p> <p>・Welcome Dinner</p> <p>グランドマリナコンgressセンターのレストランで学生及び教授、関係者の方々と交流した。今回対象となっていたのは IAMU(国際海事大学連合)と言い、58 の海事大学と日本財団で構成される国際的な船舶における人材の教育に関する機関である。私自身はフィンランドの料理と共に、アメリカやスウェーデン、韓国、中国の学生、そして彼らの教授などと自身の研究内容、それぞれの国の現状や、文化について話し合い仲を深めた。私自身、専門が少し船員教育というジャンルから少し離れているため、海事に関する新しい話、異なる視点からの話を聞くことができたと同時に自身の研究との関連を考えるきっかけとなった。</p> <p>[2日目 10/18]</p> <p>・IAMU/AGA23 オープニングセレモニー</p> <p>IAMU/AGA23 カンファレンスのオープニングセレモニーがグランドマリナコンgressセンターにて開催された。IAMU/AGA23 の変遷に関するお話を聞いた。1999年11月に設立されて以来、AGA(IAMU 年次総会)が全世界の海事に関する教育、訓練機関などの情報交換、共有場所であること、IAMUC と IAMUS から成ること、私たちが参加させていただいた IAMUS は開催大学と共催することができることを学んだ。さらに、海事業界でも脱炭素化の動きについては活発化させたい意思があり、それらの必要性についても聞くことができ、各業界脱炭素化、地球温暖化を防ぐという同じ方向を向いていることを実感した。</p>

[4日目 10/20]

・IAMUSオープニングセレモニーおよびカンファレンス

サタクンタ応用科学大学の行動で参加全学生によるプレゼンテーションとディスカッションを行った。

オープニングセレモニーでは議長のお二人からカンファレンスの進め方についてお話ししていただき、サタクンタ応用科学大学での教育プログラム、周辺諸国も含めた海事に関する状況をお話ししていただいた。

プレゼンテーションでは海事に関する様々なトピックで行われた。船員教育問題、風力と船舶の今後の関係性、OCCS(船上二酸化炭素捕集・貯蔵技術)に関する熱効率の提案、海洋シミュレータにおける物理モデルを用いた海洋事例シーンの可視化およびシミュレーション、色素増感太陽電池の開発および有用性についての提案、船員のメンタル状況を考慮した船上での筋力トレーニングの必要性と提案、バトゥーミ国立海事アカデミーにおける気候変動意識と環境意識の分析、船舶会社、船員などのブロックチェーンの普及と必要性などの様々な題目で行われた。自身の研究と違う分野だからこそ来る質問や、研究と絡めた質問もあり、普段とは異なる角度から自身の研究(風力発電分野)に関して見つめることができた。特に印象に残っている質問としては、色素増感太陽電池の海中設置可能という主張に対して、太陽光の反射及び散乱に関する考慮という質問だ。応答者はその時は上手く答えることができなかったが、その後その問題に関して数人で議論を交わし、意見交流をすることができた。このような機会は日本ではあまり経験してなかったからこそ必要だと感じたと同時に活用していこうと感じた。

[5日目 10/21]

・ハーバーツアー

フィンランドのRaumaの港をバスで巡回しながら見学させていただいた。日本にはないサイズのフォークリフトなどをたくさん見ることができて港の規模の大きさを実感することができた。船員志望の学生はコンテナの種類や会社の種類を瞬時に判別できており、自身の知識に少なさを実感した。フィンランドは木が有名ということもあり、港には輸出用の木が沢山整理されて並べられていた。

港は風も強く風車の設置場所には最適だと思い質問したが、まだまだフィンランドも風力に関しては発展途上であるらしく、今後建設される可能性があるらしいことを知った。ヨーロッパは一通り風力の導入が終わっていると思っていたが、自身が考えているよりもペースが遅いことを知った。

・Raumaツアー

世界遺産である Rauma の旧市街地を説明していただきながら見学した。フィンランドの西岸に位置する小さな港町である Rauma はフィンランドで最も古い港の一つでもある。ほとんどの家が木造建築であった。しかし、日本とは違いとてカラフルな木造建築となっており、日本の木造建築とはまた違った雰囲気を感じることができ

	<p>た。途中で Rauma の市民の方と話す機会があったが、自身の国、街についてとても詳しく知っており、日本人で自身の国、街の説明をできる人は少ないのではないかとここでも国の違いというものを実感した。Rauma は道路がほとんど石畳になっており、車が走る時も日本にいる時とは異なる音を聞くことができた。</p> <p>[6 日目 10/22]</p> <p>・IAMUの関係者と対談、食事</p> <p>IAMU常任理事である中澤さん、副理事長である森さんをはじめとしたIAMUの代表の方々と対談・食事をさせていただいた。IAMUSの感想、学んだことをお話しさせていただいたり、IAMUに関すること、今後の海事の同行や将来を考える時に参考になるお話を沢山聞くことができた。特にアメリカ、オーストラリアの大学の話、風力や新エネルギー、旧エネルギーに対する考えをそれぞれの国の視点から聞くことができ、将来の博士課程などを考えるきっかけとなる貴重な時間を過ごすことができた。</p> <p>今回のカンファレンスを通じて、新たな価値観、問題点、そして新たな知識など様々なジャンルから得ることができた。また生徒とのつながりを通して、それぞれの国の政治的事情、文化の違い、またたわいもない話をたくさんすることができ、これ以上とない貴重な経験になった。</p>
<p>指導教員の所見</p>	<p>中田学生と田淵学生が積極的に AGA の Opening Ceremony ・ IAMUS ・ Campus Tour ・ Harbor/Rauma Tour ・ IAMU Debriefing に参加し、研究発表も無事に実施できた。。他学生と色々なコミュニケーションができ、ネットワーキングも成功できた。良い神戸大学の代表になった。</p> <p style="text-align: right;">指導教員名 <u>ルックル</u> <u>トム</u></p>

※参考になる資料があれば添付してください。実施報告書については、大学の HP で公表される場合があります。